



酒沼はラムサール条約湿地に登録されたことで注目をあびています。年末に酒沼湖畔を歩く機会があり、酒沼自然公園も歩かせてもらいました。年数もたち、立派な公園になっていました。湿地部の木道を歩いていましたら周りのヨシなどは枯れていましたが、水辺に緑の広がりを見つけました。近づいてみるとオオフサモでした。以前は酒沼湖畔のヨシ原脇の水田などでみえたのですが公園内まで広がっていたのです。しばらく公園に行く機会はありませんでしたが、いつ頃から生育を始めたのでしょうか。

里山に育む生きものたち

46 オオフサモ (ユキノシタ目 アリトウグサ科)

学名 *Myriophyllum aquaticum* (Vell.) Verdc.

文・写真 / 安 昌美

▼オオフサモとは

アリトウグサ科の多年生の水生植物で、フサモ属に属しています。茎は丸く、直径四〜六mm、泥中や水中を枝分かれして這い、春から秋には十〜三十cmの茎を立ち上げます。葉は羽状に細かく裂け、節に三〜七枚が輪状についています。

原産地は南アメリカのアマゾン川です。アクアリウムでの観賞用水草として世界各地に広がりました。1800年代には北アメリカに、1900年代には南アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、日本にまで広がりました。さらに現在では南ヨーロッパ、オセアニアと世界の熱帯から暖温帯に生育しています。日本へ

は1920年頃、人が運んできたという報告があります。雌雄異株で日本のものは雌株で、雄株は南アメリカ以外では確認されていないそうです。冬も枯れずに越冬するといわれますが、酒沼では水面上の部分はどうでしょうか。写真は昨年(2018年)の十二月十八日に酒沼自然公園で撮影したものです。

▼評判の悪いオオフサモ

植物に罪はないのですが、評判が悪いのです。最初は観賞用として人を楽しませていたのに、野外に逃げ出し(捨てられて?)野生化したのです。国内各地で同様なことが起こったと思います。しかも、これまでには「多自然型川づくり」や「ビオトープ」づくりにオオフサモが利用されてきた歴史があるのです。

日本のオオフサモは雌株ばかりなので種子はできません。ですから栄養繁殖で殖えていきます。ちぎれた茎などからもどんどん増えていきますから、水路などでの除去作業で一時的に数を減らしても、小さなちぎれた茎が流されて、後日かえって広がってしまったという話もあります。茨城県内では霞ヶ浦など湖沼や池、水路などにみられます。日本では外来生物法の特定外来生物(植物)に指定され、一切の栽培や移動が禁止されています。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

茨城町の人口と世帯数

※カッコ内は前月比です。
(住民基本台帳 平成27年12月末現在)

- ◆総人口33,573人 (-23)
男16,768人(±0)、女16,805人 (-23)
- ◆世帯数12,718 (+6)

茨城町民憲章

- 1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
- 1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
- 1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
- 1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
- 1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。